Structure Kansai No.158 2023.7

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

2023年度(一社)日本建築構造技術者協会関西支部総会 5月12日開催



大住前支部長挨拶



島野新支部長挨拶



構造デザイン発表会



関西支部 支部長

「支部長就任にあたって」 (株)竹中工務店 島野 幸弘



関西支部 副支部長 「若い構造技術者 との交流」 株山田建築構造事務所 宮崎 英也



関西支部 副支部長

「再任のご挨拶」 (株日建設計 嘉村 武浩

2023年度総会を経て、JSCA関西支部の支部長に就任しました。これまでJSCA関西支部創立30周年記念事業や阪神・淡路大震災20年企画、2017年度から事業委員長として、研修会、現場見学会、新年研究会など、支部事業を中心に取り組んできました。また、2021年度から本部理事として、見学会in石川など、若手技術者に軸足をおいた企画に取り組んできました。今後はこれまでの経験を活かし、『世代を超えて、そして、会社の枠を超えて、JSCAで仲間と楽しむ』を方針に掲げ、活動に取り組みたいと考えています。

具体的には、①JSCAの将来を担う若い構造技術者との交流の活性化、②脱炭素社会実現へ向けての活動の推進、③コロナ禍により変化した社会環境に適応した活動の定着・推進などの取り組みを考えています。若手技術者の参画を促しながら、個人もJSCAも社会も、皆がWin-Winとなるような活動を本部や他支部と連携しながら実施することで、関西支部の持続的発展に貢献したいと考えています。皆さま、ご支援・ご協力、よろしくお願いいたします。

今年度も引き続き副支部長を務めさせ ていただくことになりました。島野新支部 長、嘉村副支部長並びに各委員の方々と 協力しながら活動方針の実現に向け尽力 して参ります。

5月に行われましたJSCA関西構造デザイン発表会では17作品の発表と、会場とオンラインで計311名の参加があり、過去最高の盛り上がりとなりました。若手技術者や学生が熱心に聞き入っていたという嬉しい報告も多方面から頂いております。

コロナ禍によりオンラインでの行事の実施が当たり前になりましたが、お時間の許す際は対面にてJSCA関西の行事に参加いただき、技術者同士の交流とスキルアップを図って頂きたいと思います。

昨年は日帰りでしたが、秋には1泊2日の研修会が4年ぶりに開催される予定です。会員同士がコミュニケーションを深める絶好の機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

JSCA関西支部がさらに会員の皆様のお役に立ち、活気溢れる魅力的な支部になりますよう尽力して参りますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

昨期から引き続き副支部長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨期はコロナ禍での活動が余儀なくされ、対面による交流に制限が生じるなか会員間の交流をいかに図っていくかが大きなテーマとなりました。本年5/8より新型コロナの感染症法上の扱いが5類に移行され、今期はアフターコロナへの適応を見据えた対応が求められてくると思います。ウイズコロナで学んだオンライン利用のメリットは活かしつつ、対面の良さを再認識したうえでの活動のあり方の検討が必要だと考えております。

島野支部長のもと新体制が始動いたしました。宮崎副支部長ほか、各委員会の委員長が中心になり関西支部の運営にあたります。我々構造技術者が二酸化炭素排出量削減にどう貢献していくべきなのか等、支部活動としての課題は山積しておりますが、会員の皆様のご指導ご鞭撻を賜りながらJSCA関西がより活性化するよう努力してまいります。引き続きJSCA関西の活動への積極的なご参加、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

■JSCA関西構造デザイン発表会2023 優秀賞紹介

建築と家具の間を探る 構造デザイン 「一宮の路上建築 群/杜の舞台」 IN-STRUCT

東郷 拓真



1.はじめに

このプロジェクトは一宮市が実施している社会実験で、「ウォーカブルな街を作る」という目的のもと、駅前に市民のための仮設構造物をつくる取り組みです。建築家はこれまで一緒に住宅建築などに取り組んできたambientdesignsさんです。

2. 構造スタディ

「ウォーカブルな街」を実現するため に、建築と家具の間くらいのものづくり を目指して木造の屋根のスタディを進め ました。木造は接合部が弱く固定度がな かなか出せないため、油断するとすぐ不 安定構造物になってしまいます。しかし 斜材は屋根の下のアクティビティの邪魔 になりますし、今回は基礎の打設も出来 ません。ここで、伝統的な木造建築に見 られる垂れ壁付き柱を思い出しました。 柱が折損しない限りは僅かですがせん断 耐力を発揮できるので、これを180度回 転させれば良いと考えました。ベンチで 固定度を出して、屋根・柱を1セットず つ自立させるパラソルの集合体(図1) を作るという提案をしました。

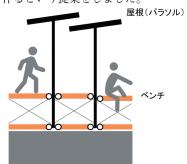


図1:パラソルの集合体

この方針に決まり、あとは建築家と一緒に計画的にも構造的にも成立する屋根とベンチの配置を繰り返しスタディしました。当時はコロナ禍の真っただ中だったので、zoomとライノセラスによる3Dモデリングでコミュニケーションをとりました(図2)。

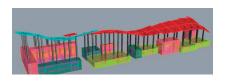


図2:3Dモデルによるスタディ

3. 具体的な検討と現場

建築と家具の間のスケール感を目指すということで、柱は木造建築よりも細い60mm角としています。鉛直荷重による座屈や風圧などに対して検討しました。

柱頭と屋根の接合部では、僅かながら X, Yの2方向について曲げを伝達させる必要があります。ここでも家具のようなディテールとして、鉄板でキャップを作り、柱にかぶせて支圧で曲げを伝達する接合を提案しました(図3)。



図3:柱頭接合部(キャップ)

4. さいごに

完成して訪れてみると、柱を細くしたことで周囲の街灯や樹木に溶け込んでおり、また市民にも愛されている様子から、当初目指していた都市と人間をつなぐ構造物が実現できたと感じました。これからも、力学の基本をもとに、建築家と一緒に形態をスタディしていくことの楽しさを大切にしたいです。





図4:竣工写真

■JSCA関西構造デザイン発表会2023

優秀賞紹介 人が"集まる" 中央吹抜け空間を 実現する構造デザイン -Panasonic XC KADOMA-㈱竹中工務店 山本 慎也



1.はじめに

本建物はS造7階建てで、下階に商業施設を有する駅前のオフィスビルである。企業の玄関口として、「集まるをデザインする」というコンセプトを掲げて計画している。このコンセプトに対し、誰でも利用でき、象徴的な大階段を有する1階・2階の屋内吹抜け空間と、このオフィスビルで働く人が休息できる場としての3階以上の屋外吹抜けテラスを有している。この2つによって、地域の方々と社員が集い、更なる交流が生まれるような空間を実現している。(写真1、写真2)

2.吹抜け空間を実現する構造計画

本建物は9m×9mグリッドで柱梁を構成している。1・2階の屋内吹抜けは大階段前の柱を2本抜いた27m×18mの2層吹抜けとすることで大階段の視認性や通りやすさを高め、3階以上の屋外吹抜けは斜めの形状を偶数階と奇数階で180度ずつ回転させることで上下階の視線が通り、人の行き来を促す計画としている。

3階以上の複雑な形状の吹抜けを構成す る梁は、2×1スパン(約20m)の斜め方向の 柱間に掛け、吹抜け形状に合わせた形で偶 数階と奇数階で180°回転させて配置してい る(図1)。3階での斜め方向の梁は屋外の 床を支えており、水勾配の水下に合わせて 周辺より梁レベルを下げておく必要がある。 一方で2階の天井レベルは下げられないと いう意匠上の要望から、梁成を900mm以 下とする必要があった。そこで7階とR階の 斜め方向梁は層間のトラスとし、3階で格子 状に掛けている斜め方向の梁の交点に 318.50の吊り柱を設け、屋外吹抜けの床 を吊り上げている。それにより、1階・2階の 吹抜けを無柱空間としつつ、20mの斜め梁 の梁成を抑える構造計画としている(図2)。 また、格子状の梁の交点としたことで、上下 階で形状が180°回転する吹抜けに対して 同じ位置にある吊り柱を合理的に効かせる ことができる。

3.おわりに

無柱空間の屋内吹抜けおよび複雑な斜め形状の屋外吹抜けを合理的な構造計画で実現し、人が"集まる"魅力的な空間を計画することができた。



写真1 1階・2階の屋内吹抜け



写真2 3階以上の屋外吹抜けテラス

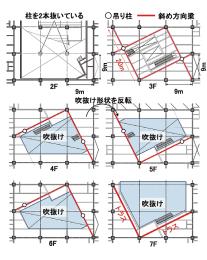


図1 吹抜け形状と柱梁配置

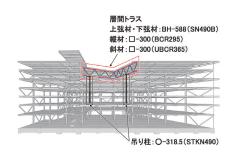


図2 トラスと吊り柱による構造架構

■JSCA関西構造デザイン発表会2023

優秀賞紹介



PCaボックスカルバート による居住空間の創出 「土管のゲストハウス」 ㈱北條建築構造研究所 多田 卓二

1.はじめに

本建物は、2階建てのプレキャスト・プレストレストコンクリート造で、4本の筒状ボックスカルバートで構成され、ボックスカルバート内部および中央の吹抜け部分に居住空間を創出したものである(写真1)。建築主・意匠設計は、家具やアート作品などのデザインを手掛ける会社であり、年々増え続けていく作品やサンプルを保管・展示し、宿泊機能を備えることでゲストハウスとしても利用できる建物として計画された。



写真1 竣工写真

2. 意匠コンセプト

当初の意匠コンセプトは、単純にボックスカルバートのピースを並べて、内部を倉庫として利用するというものであったが、湿気対策として気密性を確保するために、しっかりとした建築物とすることが求められた。

こうした経緯により、4本のボックスカルバートを井桁状に組むデザインに至り、その中央部に鉄骨屋根をかける計画となった(図1)。

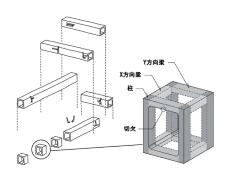


図1 意匠コンセプト

3. 構造計画

意匠コンセプトを受けて、まずプレストレスにより各ピースの一体化を図る計画とした。各ピースについては、土木で使用される既製品を採用することを検討したが、一般確認申請(ルート3)を適用するために、柱および梁配筋を内蔵したPCa部材を新規に製作した。現場においてPCより線またはPC鋼棒で各ピースを圧着させることで、PCa部材間を連続する鉄筋は設けない計画とした。

4. 構造設計

構造計算は、各ピースに内蔵した柱および梁を線材置換したモデルにより行った(図2)。

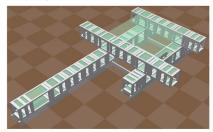


図2 解析モデル

5.上下階接続部

1階と2階は井桁交差部の4箇所でしか接していないため、地震時において2階が負担する水平力を安全に1階に伝達する機構が課題であった。

そこで、井桁交差部における上下階のPCa部材同士は、柱内のPC鋼棒に加えて、床に配置した鉄筋により接合し、PC鋼棒のプレストレス圧着による摩擦抵抗力と鉄筋によるせん断抵抗力により、水平力伝達が可能であることを確認した(図3)。

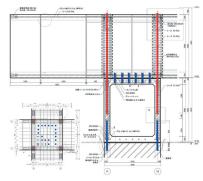


図3 上下階接続部

6.おわりに

本建物は、2022年7月に無事竣工を 迎えた。形状としては4本のボックスカル バートで構成するシンプルな発想であり ながら、個性的な建物が完成した。

JSCA関西支部 創立40周年記念事業報告







軸丸 久司(日建設計)

事業の概要

令和5年2月17日、大阪市北区の中之 島会館でJSCA関西支部の創立40周年記 念事業が行われた。

AIやDX、バーチャル空間など、新しい価値観が生まれる中、これから大きく変容していく社会の中でJSCA会員が活躍していくことを願って、記念事業のテーマとして『新時代だ!明るい未来社会を楽しみながら切り拓こう!!』が掲げられた。

会は以下のような構成であった。

- ・開会の挨拶/大住支部長
- ·講演会①/大嵩 豪朗氏
- ・講演会②/番匠 カンナ氏
- ·講演会③/小西 貴裕氏
- ・閉会の挨拶/宮崎副支部長

開会の挨拶では、大住支部長が「構造家懇談会関西支部設立から40年間、意欲的な活動を通じて、会員間の交流を深めてきた。今後も構造設計者の新時代を切り拓くとの自負を持ち、ともに新技術を学び、切磋琢磨していきたい」と述べられた。

第二部の懇親会は、中之島フェスティバルタワー内の飲食店にて行われた。

コロナ禍ではあったが、会場参加者が 約100名、ウェビナー参加が約130名、懇 親会参加者は約80名と盛況であった。

以下、講演会の概要と、懇親会の様子、 WGメンバー活動の概要やコメントをまと める。

講演会①/大嵩 豪朗氏

「大阪・関西万博の最新動向について」

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会ICT局の担当課長の大嵩氏より、大阪・関西万博の背景や、会場の構成など動画を交えて紹介があった。また、会場を

オンライン上に再現したバーチャル万博も計画されており、世界中の方がスマートフォン等でメタバース空間会場に参加でき、リアル・バーチャル連携によって万博の魅力を高める相乗効果を図る取り組みの概要についても述べられた。

講演会②/番匠 カンナ氏

「メタバースは建築に何をもたらすのか」 ~空間を持ったインターネットの未来~

Idiomorph主宰の番匠カンナ氏(本名:服部一晃氏)がメタバース空間のアバターとして登壇され、実建物を再現した空間や、アンビルド建築、立体核図表を3次元空間化した重力の概念を取り払った仮想空間でしか実現できないメタバース空間等を移動しながら、メタバース空間の概念やこれからの建築の可能性について述べられた。参加者は、講演を通じてメタバース空間を疑似体感でき、メタバース空間を通じて、建築の価値や未来について、改めて考える機会となった。

講演会③/小西 貴裕氏 「人と技術をつなげる新時代データプ ラットフォーム」

応用技術(株)の小西氏より、BIMを基軸とした次世代建築生産システムやWeb3.0時代のデータプラットフォームの概要について紹介があった。また、ChatGPTでの身近な検索事例を通じて、AIも間違うことや進化の速さについても紹介があった。建設業の労働生産性向上は喫緊の課題であり、建設DXの推進や製造業から学ぶジェネレーティブデザインによるプロセス変革、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立し、人間中心の社会の実現を目指すことについて述べられた。



写真1 会場の様子



写真2 大住支部長の開会の挨拶



写真3 大嵩氏の講演の様子



写真4 番匠氏の講演の様子



写真5 小西氏の講演の様子



写真6 宮崎副支部長の閉会の挨拶

懇親会の様子

第一部終了後、会場をフェスティバルタワーに移して懇親会が行われた。嘉村副支部長の乾杯の挨拶の後に、フセンを用いたゲームが行われた。フセンを用いて塔上の模型を作成し、アスペクト比を競うものであったが、テーブルごとのチーム対抗戦であった。各チームとも、技術者のプライドをかけ、さまざまな工夫を凝らした模型ができあがった。

大住委員長の閉会の挨拶後、集合写真 を撮影して閉会となった。

40周年記念事業企画WGの活動

2022年の4月に第一回のWGが開催され、35周年記念事業WGから、これまでの記念事業企画の概要を引き継ぎ、その後、WGメンバーで各担当を決めた。コロナ禍であったが、それを払拭するような、新しい時代に向けた企画をWGで練っていった。途中、企画の構成を大変更する事態が起こったが、それによって、WGメンバーの団結力が高まった。WGメンバーのコメントを以下にまとめる。

○熊野豪人(竹中工務店)

明るい未来志向の企画を形にするまで、大いに悩みましたが、一致団結して突破することで、新しい同窓の仲間が出来ました。今後もこの絆を大切にJSCA関西の「新時代」を盛り上げたいと思います。

○倉長哲司(能勢建築構造研究所)

大きな企画を同世代の仲間と共に進めてい く作業は、大変有意義な時間でした。最後ま で粘り強く取り組んだ結果、良い企画となり 達成感と感謝の気持ちでいっぱいです。

○佐久間 譲(bananaLab)

重力と加速度をデザインする集団の折なる イベントで物理法則不要の世界をメインに 据えたのは斬新で多くの発見があった。この チームじゃないと生まれない果実で今なお 哀感が止まない。大好きだよ。

○軸丸久司(日建設計)

企画を創り上げていく過程に、いろいろなドラマがありましたが、よきメンバーとともに会社を越えて語り合えたことは貴重な経験となりました。このWGに参加できたことに感謝申し上げます。

○田中政寛(山田建築構造事務所)

紆余曲折ありましたが、同世代のメンバーとともに困難を乗り越え、この企画を無事に成し遂げることができ、感慨もひとしおです。素敵な仲間と出来て楽しかったです。ありがとうございました。

○中村吉秀(大林組)

最終的な企画に至るまでは一筋縄では行かず、産みの苦しみが本当に苦しかった時もありましたが、最高のチームワークによって乗り越えたのは今となっては本当に良い思い出となっています。

○野村周平(日本建築総合試験所)

まさしく「雨降って地固まる」そんな言葉通りのイベント企画運営でした。トラブルも難なく乗り越える知力のある皆さんとの活動は有意義で、大変楽しかったです。

○房安智也(昭和設計)

いろいろトラブルがありましたが、最終的に は良いイベントが作り上げられたのではない かと実感しています。このような企画に参画 できたことを、光栄に思います。

○藤井章男(ニュージェック)

控えめに言って「最高」なチーム、企画だったと思います。業務では取り組んだことが無い柔らかなテーマに対して、皆で知恵を絞り、熱量高く丁寧に、伝えたい想いをカタチに出来たと思います。

○松﨑 聡(北條建築構造研究所)

終わってしまえばあっという間でしたが、無事に完遂することができてよかったです。慣れない懇親会イベントも皆さんに楽しんで頂けたようで感謝しきりです。有難うございました。

<WGメンバー全員より>

本企画にあたって、講演を快諾いただいた 講師の方々、サポートしていただいたJSCA 関西支部の事務局の方々や35周年WGの 方々に感謝申し上げます。また、WGの知恵 袋として活躍いただいた竹中工務店井ノ口 氏に厚く御礼申し上げます。

今後もJSCA関西支部発展のため、そして新 時代のために尽力できればと存じます。



写真7 ゲームの様子①



写真8 ゲームの様子②



写真9 番匠氏のコメント



写真10 大住支部長の閉会の挨拶



写真11 集合写真

うめきた2期「グラングリーン大阪」 -南街区賃貸棟-西棟 現場見学会参加報告



株大林組 大阪構造設計部 中村 篤

■はじめに

約91,150㎡の地区面積の中に都市公園約45,000㎡を中心に、北街区約15,000㎡、南街区約30,000㎡の3つのゾーンに分かれた一大プロジェクトです。

このうち南街区賃貸棟について、西棟 の28階部分の鉄骨建方中である2月初 頭に現場見学会を開催いただきました。

ほぼ同時期にプロジェクトは「グラングリーン大阪」と命名されました。

■建物概要

工事名称:うめきた2期地区開発

プロジェクト

「グラングリーン大阪」

南街区賃貸棟

工事場所:大阪駅北大深西地区

土地区画整理事業区域内

階 数:西棟 地上39階・地下3階

東棟 地上28階・地下3階

敷地面積:約25,260㎡ 延床面積:約314,250㎡

構 造:地上 S造(柱:主にCFT)

地下 SRC造、RC造、S造

基礎 場所打コンクリート杭

建物用途:東棟 B3階~4階 商業施設

5階~17階 オフィス

5階~27階 ホテル

西棟 B3階~3階 商業施設

4階 MICE施設 6階~27階 オフィス

28階~38階 ホテル

建築主:三菱地所株式会社ほか

設 計:三菱地所設計・日建設計

大林組・竹中工務店

監 理:三菱地所設計・日建設計

工:うめきた2期共同企業体

(竹中工務店・大林組)

工 程:2020年12月

施

民間宅地着工

2025年春頃

賃貸棟全面開業

2027年度

全体まちびらき



敷地全体

■構造概要

南街区賃貸棟は、1階床で東棟と西棟 が一体化されています。

東棟は、平面形45m角の18階建てのオフィスと平面形約29m角の28階建てのホテルが商業施設4階で一体化されています。

西棟は、平面形約51m角の39階建て、29階建ての2棟が斜めに少し振った形で近接しており、中間トラスがある28階で一体化されています。

中間トラスによりスパンの異なるオフィス階とホテル階の合理的な切り替え、高層部分の剛性を合理的に確保しています。

高い耐震性能確保のためコアフレーム 内に履歴系(座屈拘束ブレース等)および粘性系(オイルダンパー、減衰こま、 粘性制震壁等)の制振装置をバランスよ く配置しています。

履歴系制震装置により建物剛性を高め、柱梁フレームの損傷を低減するとともに、粘性系制震装置により建物の減衰性能を高めることで、大地震に対する抵抗に加えて、強風、中小地震動、長周期地震動に対する応答の低減と振動の収束を早める構造形式としています。

東棟ホテルは、搭状比が大きいため塔 屋に制振装置 (AMD) を付けています。

基礎形式は杭基礎を採用し、高層部で軸力の大きい杭については、GL-約47m以深の洪積砂礫層(第二天満層)を支持層とする場所打コンクリート拡底杭、低層部で比較的軸力の小さい杭は、GL-約27~35mの洪積砂礫層(第一天満層)を支持層とする場所打コンクリート拡底杭としています。

■見学会報告

構造設計者による構造設計概要の説明、工事施工者による工事概要の説明 を受けました。

西棟の現場に移り、まず、仮設EVで15階へ上がり、敷地全体の計画を見下ろしながら説明いただきました。高層階の座屈拘束ブレースを見た後、4階に降りてオイルダンパーと制震構造の施工状況を確認しました。その後、地下3階に降りて逆打ち工法の施工状況を確認しました。

見学会後の質疑応答では、BH梁水平 ハンチ、柱軸力差の施工、制震デバイ ス選定、CFT柱構心柱、多棟逆位相の1 階スラブのせん断力移行等、活発的な意 見交換があり、有意義な時間が過ごせま した。

■おわりに

お忙しい中、ご説明いただきました構造設計者様、施工担当者様、とりまとめいただいたJSCA関西事務局様、同事業所のものではありますが、改めて有意義な現場見学会を開催いただき、お礼申し上げます。



南街区賃貸棟全景

■JSCA関西支部2022年度事業報告書

(2022年4月~2023年3月)

1.2022年度支部総会 0602 中之島会館(ウェビナーとのハイブリッド開催)

210名(委任状171名含む)

2.支部幹事会 0511, 1125

3.運営会議 0401, 0426, 0520, 0623, 0729, 0826, 0922, 1021,

1125, 1223, 0113, 0130, 0228, 0327

4.事業委員会 0420, 0517, 0620, 0711, 0728, 0822, 0912, 1003,

1114, 1205, 0116, 0213, 0313

5.技術委員会 0425, 0523, 0627, 0829, 1024, 1226, 0227

6.広報委員会 0420, 0614, 0921, 1221, 0315

7.耐震診断・補強判定委員会関西部会 0616,0915,1020,1215,0119 8.木造住宅レビュー委員会 0419,0516,0613,0711,0823,0912,1018,

1122, 1219, 0119, 0220, 0316

9.構造レビュー委員会 開催なし

10.大震研委員会 休会(2022年度をもって閉会)

11.研究会

・定例研究会 0602 JSCA関西構造デザイン発表会2022

中之島会館(ウェビナーとのハイブリッド開催)

参加者282名

•新年研究会 0120 ISCA関西支部新年研究会

第一部:2022年度JSCA賞受賞者講演

第二部:パネルディスカッション「ここでしか語れない

ISCA賞苦労話」

建設交流館にて対面のみの開催 参加者 101名

12.現場見学会 0916 (仮称)堂島2丁目計画 参加者 27名

0203 うめきた2期-南街区賃貸棟-西棟 参加者 29名

13.研修会 1122 JSCA関西支部2022年度研修会「SDGs未来都

市 真庭で「木(モク)」のトレンドを探る - 蒜山高

原~真庭市-」 参加者 47名

14.支部報 Structure Kansai No.153,154,155,156 発行

15.関西支部創立40周年記念事業

0217「新時代だ!明るい未来社会を楽しみながら切り

拓こう!!」

・大阪・関西万博の最新動向について、

講演者:大嵩 豪朗氏

・メタバースは建築に何をもたらすのか、

講演者:番匠 カンナ氏

・人と技術をつなげる新時代データプラットフォーム、

講演者:小西 貴裕氏

中之島会館(ウェビナーとのハイブリッド開催)

参加者245名

16.技術委員会各分科会

·地盤系分科会 1020 0125

・RC分科会0518 0824 1116 0215・金属系分科会0428 0930 1201 0125・情報システム分科会0915 1006 1124 1215 0323

・構造計画分科会 0519 1216 0309・耐震設計分科会 0617 1207 0125・PC・工業化分科会 0630 1115

·木構造分科会 0526 0726 0915 1117 0119 0216 0316

·法制分科会 0421 0707 1117 0207

※下線付きは拡大分科会を示す。

17.サテライト活動

・奈良会 開催なし

・京滋会 1109 講演「構造デザインとエンジニアリング」、

講師:京都工芸繊維大学 満田衞資教授

参加者 31名

※兵庫会は「21.他団体へ委員・講師派遣」で記載

18.講習会

・JSCA建築構造士定期講習会本部主催でオンライン開催

・木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会

0406(19名) 0601(21名) 1005(16名)

 0201(28名) 参加者 計84名

 ・スキルアップセミナー
 本部主催でオンライン開催

・若手技術者育成講座 0302 場所: 大阪科学技術センター

参加者 20名

19.親睦会 0120 賀詞交歓会

場所:建設交流館 参加者 86名 0217 関西支部創立40周年記念事業 懇親会 参加者 72名

20.研究受託 受託なし

21.他団体への委員・講師の派遣

委員派遣

・大阪市「大阪市耐震改修支援機構」 石田健吾, 大住和正, 小倉正恒・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 樫原健一, 田村佳英

·神戸市「建築物安全安心推進協議会」 〇石本泰宏

・日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」 近藤一雄,田代靖彦,山浦晋弘

•日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 嶋﨑敦志

日本建築総合試験所「判定助言委員会」

大住和正, 嘉村武浩, 近藤一雄, 島野幸弘, 宮崎英也, 吉田聡

・日本建築総合試験所「基礎技術性能認証委員会」 後藤雅夫 ・日本建築総合試験所「コンクリート工事実務研修委員会」 上森 博 ・大阪府建築十会「東攻建築十審査評議会」 大伊和正

・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 大住和正 ・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議委員会」 横田友行

・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正

・兵庫県建築士会「専攻建築士審査評議会」 〇山田正人 ・大阪工業大学「専門委員会」 横田友行

○印は兵庫会から選任

講師派遣

・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定講習会」 福本義シ

・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」北山宏貴、山浦晋弘

・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」石田健吾、横田友行

22.関連団体との交流

•在阪建築関連15団体事務局会議 0929 (Web会議)

·在阪建築関連15団体会長·支部長午餐会 1110

場所:綿業会館 本館7階大会場

•在阪建築関連15団体新年交礼会 0104

場所:シェラトン都ホテル大阪 浪速の間

■JSCA関西支部2023年度事業計画書

(2023年4月~2024年3月)

1.2023年度支部総会 0512 中之島会館(ウェビナーとのハイブリッド開催)

 2.支部幹事会
 0418, 秋頃

 3.運営会議
 0418 以降1回/月

 4.事業委員会
 0410 以降1回/月

5.技術委員会 0417 0626 0828 1030 1225 0226

6.広報委員会 0621 0920 1220 0321

7.耐震診断·補強判定委員会関西部会 0516 0718 0919 1121 0117 0319

 8.木造住宅レビュー委員会
 随時

 9.構造レビュー委員会
 随時

10.研究会 0512 定例研究会 JSCA関西構造デザイン発表会2023

会場とウェビナーによるハイブリッド開催

1月 新年研究会

11.現場見学会 2回/年 程度

12.研修会 1110-1111 名古屋·岐阜方面で検討中 **13.支部報** Structure Kansai No.157, 158, 159, 160発行

14.技術委員会各分科会

 ・地盤系分科会
 0413 以降4回/年 程度

 ・RC分科会
 0517 以降3回/年 程度

・金属系分科会4回/年 程度・情報システム分科会4回/年 程度

•構造計画分科会 4回/年 程度 •耐震設計分科会 4回/年 程度

·PC·工業化分科会 0424 以降2回/年 程度

•木構造分科会 5回/年 程度 •法制分科会 4回/年 程度

技術委員会として2回/年 程度 •拡大分科会

15.サテライト活動

•奈良会 1回/年 程度 •京滋会 1回/年 程度

※兵庫会は「19.他団体へ委員・講師派遣」で記載

・木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会 休止

•若手技術者育成講座 1回/年

17 親睦会

•定例研究会懇親会 0512 •研修会懇親会 1110 •智詞交歓会 1月

18.研究受託

・大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務 随時

19.他団体への委員・講師の派遣

委員派遣

•大阪市「大阪市耐震改修支援機構」

石田健吾, 小倉正恒, 島野幸弘, 山浦晋弘

・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 樫原健一,田村佳英

•神戸市「建築物安全安心推進協議会」

○石本泰宏

·日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」

近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘

・日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 嶋崎敦志

·日本建築総合試験所「判定助言委員会」

嘉村武浩, 島野幸弘, 宮崎英也, 安野 郷, 吉田 聡

·日本建築総合試験所「基礎技術性能認証委員会」 後藤雅夫

・日本建築総合試験所「コンクリート工事実務研修委員会」 上森 博

·大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 鳥野幸弘 ・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議委員会」 横田友行

·京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正

·兵庫県建築士会「専攻建築士審査評議会」 〇山田正人

·大阪工業大学「専門委員会」 横田友行

○印は兵庫会から選任

講師派遣

・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定講習会」

福本義之

・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」

小倉正恒, 山浦晋弘

・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」

石田健吾, 横田友行

20.関連団体との交流

•在阪建築関連15団体新年交礼会

•在阪建築関連15団体事務局会議 9月,3月頃

·在阪建築関連15団体会長·支部長午餐会 秋頃

1月

■2023年度 関西支部 体制

支部長島野幸弘(竹中工務店) :支部担当理事 副支部長 嘉 村 武 浩 (日建設計) 宮崎英也(山田建築構造事務所) 智 (安井建築設計事務所) 事 秋 \blacksquare 博 (日本設計) H 森 大川正明 (鹿島建設)

小 倉 暋 人 (清水建設) 久保恒治(能勢建築構造研究所) 古 島 下 博 (大林組) 井 由 尚 (大成建設)

木直幹

鈴

均 (昭和設計) 寺 \blacksquare 橋本宗明 (北條建築構造研究所) 福 本 義 Ż (大林組) 桝 田洋子(桃李舎)

(竹中工務店)

松 浦敏彦 (ティーエムアーク) 健 (東畑建築事務所) 松 村 郷 (鴻池組) 安 野 吉 \mathbb{H} 1轮 (日建設計)

査 小 倉 正 恒 (日本建築総合試験所) 監 嶋 崎 敦 志 (大林組)

支部顧問 近 藤 一 雄 (東畑建築事務所) 彰 (日本建築総合試験所) 角 谷尾俊弘 (イオリ建築設計事務所) 英 一 (安井建築設計事務所) 计 八木貞樹 (八木建築構造研究所)

本部担当理事 嘉 村 武 浩 (日建設計)

事務局佐分利和宏(竹中工務店) 局長 秋 田 智 (安井建築設計事務所) 池内邦江(竹中工務店) 敦 (日建設計) 伊 藤

河井翔太郎 (鴻池組) 田中嘉一 (大林組) 野村周平(日本建築総合試験所) (東畑建築事務所) 松村

石原邦子 (JSCA) (事務局については、調整中) ●事業委員会

博 (日本設計) 委員長上森 健 (日建設計) 委 員 田田 小 倉 賢 人 (清水建設) 阪井由尚 (大成建設) 木 直 幹 (竹中工務店) 野村建太(山田建築構造事務所) 引、井 (能勢建築構造研究所)

藤井彰人(大林組)

●技術委員会 吉 田 11於 (日建設計) 委員長 委

員 橋 本 宗 明 (北條建築構造研究所) ·- RC 古島正博(大林組) ···PC·工業 九嶋壮一郎(竹中工務店) ----金属系 平石浩二 (イオリ建築設計事務所)…耐震設計

影 武 知 (大林組) 西 …抽怨系 健 (東畑建築事務所) 松村 …情報システム 田中政寛(山田建築構造事務所)…構造画 野村建太(山田建築構造事務所)…湯

郷 (鴻池組)

石田健吾(ヤマダホームズ) … 林髓

●広報委員会 委員長 安 野

委 員 伊藤栄治(安井建築設計事務所) 慶 祐 一 (竹中工務店) 大 川 正 明 (鹿島建設) 金 田 興 熙 (Ks構造設計事務所) 河井翔太郎 (鴻池組) 阪田扶佐子 (山田建築構造事務所) 軸 丸 久 司 (日建設計) 代 靖 彦 (日建設計) 本 宗 明 (北條建築構造研究所) 石 浩二 (イオリ建築設計事務所) 柳 澤信行(竹中工務店) 山田能功(大株組)

●木造住宅レビュー委員会

委員長小倉正恒(日本建築総合試験所) 員石田健吾(ヤマダホームズ) 委 樫 原 健 — (SERB)

吉田哲也(大林組)

北山宏貴(大株組)

甲谷千里(日本建築総合試験所) 四 宮 忠 明 (兵庫県住宅建築総合センター)

鈴木直幹(竹中工務店) 田村浩史(清水建設) 田村佳英(悠計画研究所) 鳥羽瀬公二(鳥羽瀬社寺建築) 山浦晋弘(安井建築設計事務所) 横田友行(能勢建築構造研究所)

●耐震診断委員会関西部会/構造レビュー委員会

宮崎英也(山田建築構造事務所)日下哲(日本建築総合試験所) 部会長 哲 (日本建築総合試験所) 副部会長 員 阿波野昌幸 (近畿大学) 委

小 倉 正 恒 (日本建築総合試験所) 嶋崎敦志(大林組) 田代靖彦(日建設計) 前野敏元(竹中工務店) 山浦晋弘(安井建築設計事務所) 横 田 友 行 (能勢建築構造研究所)

●危機管理委員会

委員長 前野 敏元(竹中工務店) 小 倉 正 恒 (日本建築総合試験所) 委 員 嶋 﨑 敦 志 (大林組)

●編集委員会関西部会

部会長 白沢吉衛(甲建設計) 委 員

智 (安井建築設計事務所) 秋 田 新井康輔(能勢建築構造研究所) 岩井昭夫(大成建設) 大堀太志(竹中工務店) 田 邊 太 一 (大手前大学)

福本義之(大林組) 山中昌一(清水建設)

●定期講習WG

WG長 鈴木直幹(竹中工務店) 委 員 嶋 崎 敦 志 (大林組) 白沢吉衛(日建設計)

●国際委員会(本部)

員嶋﨑敦志(大林組) 委

一 般	会	<u>計</u>					(単位:)
勸	定	科 目	予算	実績		備考	
業	収	λ	2,300,000	1,310,000			
	期道			1,310,000			
		研究会费収入	1,700,000		木造講習会会費、 指針本データ販売	木造テキスト販売、砂	修会会費、若手講座会費
		記念行事収入			相町やナーク収元 懇親会参加費		
の他	O NZ	λ	1,205,000	169,237	167-64-35 05-78-34		
	懇 お		1,200,000	57,000			
	雑	収 入	5,000	112,237			
		利 息 収 入		237			
		雑 収 ス			旧事務所(安田ビバ	/) 保証金返金	
別会計		<u> </u>	350,000	0			
部受	入 収付 金 か	· À	4,221,000	4 221 000	本部からの交付金		
業活動	収入(8,076,000	5,700,237	17-10-0-0-0-0-17-12		
	*	樹	4,750,000	3,313,882			
	加査	研究事業費		2,223,092			
		委 員 会 費		234.347			
		研究会費	2,200,000	985,188	定例(デザイン発表会)	、新年研究会、サテ	ライト活動、研修会、見学会、若手。
	1	大震研費		,100	m., 小坦勝百公 第	35. 元级其余	
	1	記念行事费		1.003.557	記念事業経費、額	日本会員	
	숲	誌 発 行 費		1,081,890	ストラクチャー関西	4回発行	
	渗	外 费		8,900			
		渉 外 費		0			
		潜負担金			建築15団体午餐会	参加费	
	理事	費 務 哲	4,410,000	4,661,678			
	100	務	1,490,000	2,760,325	48.0.2111	er (- 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	移転27,465円他)の86.7%
		前 耗 品 费		59,937	(一般会計:特別会	#=86.7%:13.3%	移転27,465円銀)の86.7% 全、インターネット接続関係料金、
		通信事務費事務機器費		543,348 1.709.603	転費146,850円等)	Ø86.7%	ド並、インターホンド9600日曜年下並、 に費770,900円等)の86.7%
		B B		1,709,003	MONTH CO C. NO	(01/100a)2-01%, 191	63(110,300)-1997v260.170
		旅 費 交 通 費	30,000	0			
		20 50		447,237	一般会計として、総	額(HPルテ、振込手	数料、移転費222,666円等)の86.7
	会	_ 10 男		190,548			
		総 会 男		87,258			
		選労会議費		103,290			
	施	設勢の		1 710 805			
	1	光 粉 剪		223,162	一般会計として総象	fiØ86,7%	
		支部 货 借 料	1,380,000	1,487,643	一般会計として総制	前の86.7%	
事業活動			9,160,000	7,975,560			
		£額(C)=(A)−(B)	▲ 1,084,000	▲ 2,275,323			
資 活	動収		600,000	3,440,962			
	特質	預金取締 災害対策積立預金		3,440,962			
		事務所整備等積立預金	0	2,752,962			
		記念行事積立預金	600,000	583,557			
資 活	勤支	大震研用金 H(E)	0	104,443	-大震研支出¥10	4,443	
、 具 活	助 支	出(E) 即得支出	0	1,481,220 1,451,580			
		差入保証金支出			新事務所保証金		
	特質	图 預 金 積 立		29,640			
	Ι΄ ΄΄	災害対策積立預金		0			
	1	事務所整備等積立預金 記念行事積立預金	2 0	140	利息		
	1	大震研預金		29,500	=大震研収入¥29	,500	
设资活動	収支	藝額(F)=(D)-(E)	600,000	1,959,742			
F f	備	費 (G)	0	0			
4期収	支 差	額(H)=(C)+(F)-(G)	▲ 484,000	▲ 315,581			
	収支差	整額(1)	10,307,692	10,307,692			
	収支を	藝額(H)+(I)	9,823,692	9,992,111			
マ 期 繰 越 郵帳残高との	照合	次期繰越収支差額	9,992,111	~			
マ期 繰越 1帳残高との ・繰越金							
と期線越 動態残高との 線越金 前払費用(月家賃)		204,709				
マ期 繰越 ・ ・ 繰越金 前払費用(c) ・ 未払/サッタ	月家賃)	*1.9	83,168	TA MUSIC OF	VI. 4 V4 IV		
マ 期 繰 越 前級残高との ・緑越金 前払費用(6 未払/物別金 種級残高	月家賃) 計への分配÷	*A-B+C		←残高証明との	一致を確認		
文 期 繰 越 面級残高との 線越金 前払費用(6 : 未払/物別金	月家賃) 計への分配÷	*1.9	83,168 9,870,570		一致を確認		,
文期 繰 越 重要残高との 線越金 前払費用(6 : 未払/物)(6 重要残金の)	月家賃) 計への分配÷	*A-B+C	83,168 9,870,570	減少	- 数を確認 当期末残高	当期末通帳残高	1
マ期線越 前級残高との 線越金 前払費用(4 未払/物)(金 を 事定預金の)(利	・月家賃) 計への分配。 明中増減・ 意類	*A-B+C 通帳残高との服合 前期末残高	83,168 9,870,570 増加 (積立・収入)			当期末通帳残高	
マ期線越 価級残高との 緑越金 前払費用の 未払/物別金 価級残高 か定預金の排 程 音 対 東	明 京 貫) 計への分配。 関 中増減・ 意類 積立 引	*A-B+C 通帳残高との服合 前期末残高 页金 7,100,00X	83,168 9,870,570 増加 (積立・収入)	減少 (取崩·支出)	当期末残高		←残高一致を確認
 関縁 越 動級残高との 静越金 前払費用(4 未払/物別金 を を 予定預金の別 利 を 等 を 対策 を を を を を を を を を を を を を を を を を	明末貫) 割への分配・ 期中増減・ 意類 積立 1等積立	**A分 A-B+C 通帳務高との照合 前期末残高 第 金 7,100,000 原金 5,495,000 項金 4,080,000	83,168 9,870,570 押加 (積立·収入) 0 140 0 0	減少 (取崩·支出) 0 2,752,962 583,557	当期末残高 7,100,000 2,742,178 3,496,443	13,338,621	
画帳残高との A 線越金 B 前払費用の C 未払/物別金 B 前接費用の B 表 表 の 表 の 表 の 表 の 表 の 表 の 表 の 表 の 表 の	明家賃) 計への分配。 関中増減・ 意類 積立 1等積立	*A分 A-B+C 通帳残高との照合 前期末残高 資金 7,100,000 資金 5,495,000	83,168 9,870,570 増加 (積立・収入) 0 140 0 0 29,500	減少 (取崩・支出) 0 2,752,962	当期末残高 7,100,000 2,742,178		←残高一致を確認

新力	<u>: 計</u> 定 料 B	2022年度	2023年度	(単位:円)	特
業収	λ	予算 2,300,000	予算		
		入 2,300,000	1,390,000		
	研究会費収	入 1,700,000		研究会(5千X8)若平講習会費(5千X20人)。拡大分科会(3千X20)。研修会(3万X40)	事
		入 600,000	1,000,000		
他の」	収入	1,205,000	1,405,000		
题		入 1,200,000	1,400,000		
広		入 0	0		
9tt		入 5,000	5,000		そ (
	利息収	入 200 入 4,800	4,800		
会計繰入金		350,000	300,000		
交付金		4,221,000	4,188,000		<u> </u>
部収	λ	0	450,000		一般
活動収		8,076,000	7,733,000		本部
2		4,750,000	3,480,000		A 10
		費 3.820,000	2,400,000		事力
	委 員 会	費 420,000	420,000	4万N9(分科会)2万N3 (広報、事業 技術)	
- 1		費 2,200,000	1,980,000	定例研究会、若手講習,拡大分科会、見学会、研修会、サテライン活動等 地 *1	*
		費 1,200,000	0		#
災会		費 000,000	1.050.000	ストラクチャー間 西発行	- 1
名		費 900,000	1.050.000		ı
池		費 30,000	30,000		
	渉 外	費 10,000	10,000	度明金等	
		全 20,000		1 GEES (4-170ELAS)	
理	费	4,410,000	5,120,000		
本		費 0 費 1.490,000	1,490,000		
14		費 50,000		>ピーカウント料金値(一般会計として総額の約85%)	
		費 0	0		
		費 250,000		戦略代等(一般会計として絶類の約85%)	
		費 1,000,000		事務機器5-x代、インターネットパンク基本科(一般会計として総類の約85%)	
		費 0 源 0	0		ı
		費 30,000		幹事本部交通費	- 1
- 1		費 160,000		HPハゲナンス他(一般会計として総額の約85%)他	
会	14	費 1.290,000	1,290,000		- 1
		費 80,000	80,000		—
		費 10,000 費 1,200,000	10,000	静事会 総会後40万新年会60万.	管
施		費 1,200,000 費 1.630,000	2,340,000		
1		費 250,000	300,000		
	支 部 賃 借	料 1,380,000	2,040,000		
活動支	出 計 (B)	9,160,000	8,600,000		
活動収支	差額(C)=(A)-(B)	▲ 1,084,000	▲ 867,000		
活動」特		入 600,000	0		
44 7	災害対策積立預		0		
	李務所整備等積立面		0		ı
	記念行事積立預		0		⊢
	大 撰 研 班	£ 0	0		対
活動:	支 出(E)	0	0		<u> </u>
		出 0	C		— 般
	災害対策積立預		0		事务
	事務所整備等額立頭		0		事業
	記念行事積立預	ât 0	0		
	ž 额 (F)=(D)-(E)	600,000	0		予
活動収支					
活動収支備	費 (G)	0	0		ar:
備					_
備	差額(H)=(C)+(F)-(G)	▲ 484,000	▲ 867,000		前期
備 取支: 繰越収支	差額(H)=(C)+(F)-(G)				当前期次期

	勘定	科目	П	予算	実績	備考
業	収入		$\overline{}$	1,072,000	737,000	
* *		ュー等事業リ	0 7	900,000		木造レビュー
		1 等 収	^	22,000	137,000	小道とこ ユー
		会等収	슀	150,000	0	
その他			-	500	174	
,	受 取	利	息	500	174	
	雑	収	Ñ	0	0	
- 般会計	繰入金収入			0	0	
本部から	の受入収入			1,696,000	1,520,000	耐震診断・補強判定費
事業活動	助収入合計	(A)		2,768,500	2,257,174	
5			_	4.500.000	4 450 500	
Þ		· Art str at		1,528,000	1,452,599	
	構造レビ	1 - 等事業		1,430,000	1,452,599	
		人 件 事 務	費	120,000	0.100	70 TM 88.59
		事 務レビュー	費費	130,000		発送費等 木造レビュー603,000、耐震診断・補強判定費¥840,460
		委託	費	1,300,000	1,443,460	アドルニー 003,000、前級(20円・電源円)に買すの(0,400
	-	託等事業		18,000	0	
	~ ~ [人件	費	18,000	0	
		事務	費	0	0	
		委託	費	18,000	0	
	講習会	等事業	費	80,000	0	
		人 件	費	0	0	
		事 務	費	40,000	0	
		委 託	費	40,000	0	
管	理費			742,000	758,420	
	人	件	費	0	0	
	事	務	費	422,000	495,978	消耗品費,通信事務費,事務機器費,雜費等(一般会計:特別会計= 86.7%:13,3%)
		消耗品	費	17,000		特別会計として総額の13.3%
		通信事務		50,000		特別会計として総額の13.3%
		事務機器		230,000		特別会計として総額の13.3%
		租税公	課費	80,000		法人税等負担金 特別会計として総額の13.3%
			$\overline{}$	45,000		
	施	設	費	320,000	262,442	特別会計として総額の13.3% 施設費: 室料(¥228,208)、光熱費 (¥34,234)、等
対 本	部 支 出			100,000	36,850	
一般会制	†繰入支出			350,000	0	
	助支出合計			2,720,000	2,247,869	
事業活動	协収支差額	(C) = (A) - (B))	48,500	9,305	
ř	備費	(D)		48,500	0	
当期収	文 麦 差 額	(E) = (C) - (D)	0	9,305	
前期繰走	遂収支差額	(F)		21,021,225	21,021,225	
次期 繰 起	越収 支差額	(E) + (F)		21,021,225	21,030,530	
重帳残高	レの昭会				/ -	
4 繰越金		次期繰越収支差額	-	21,030,530	/	
未収入:		一般会計より分配金	\rightarrow	83,168		
		耐震判定、木造レビュ	_	1,132,000		
	£r l					
C 未収入: C 未収入:	<u> </u>	耐展刊走、小道レニュ		5,004		

特 別	一会 i				2022年度	2023年度	(単位:F
	勘定	科目			予算	予算	備考
事業		<u>٠</u>	-	de 3	1,072,000	400,000	
	構造レー		事業	_	900,000		構造レビュー, 木造レビュー
	研究	受 託 会 等	-, -	. , .	22,000	0	
その他			y 4X		150,000 500	500	
C 07 1E	受	IIg	利	息	500	500	
	雑	収	7.9	入	0	0	
- 취수 카	繰入金収				0	0	
					-		本部からの受入金
本部から	の受入収	λ.			1,696,000	2,240,000	· 耐禦利定支部受政分
事業活	動収入1	H (A)			2,768,500	2,640,500	
*	* ·	t t			1,528,000	1,530,000	
	構造レ		等事	業費	1,430,000	1,530,000	
		人	件	費	0	0	
		事	務	費	130,000	130,000	レt' z=部会会議費、資料発送費等
		v t	,2	- 費	1,300,000	1,400,000	耐震判定費, 木造レビュー
		委託	費	等	0	0	
	研究	受 託 等	事	業費	18,000	0	
		人	件	費	0	0	
		\$	務	費	0	0	
		委託		等	18,000	0	
	講習	会等	事 非		80,000	0	
		٨	件	費	0	0	
		事	務	費	40,000	0	
-	<u> </u>	委託	費	等	40,000	0	
ř		<u></u>		-	742,000	742,000	
	本	件 ***		费	0	0	
	*	務 消 邦	15	費	422,000 17,000	17,000	特別会計として総額の約15%(租税公課除く) 特別会計として総額の約15%
		通信		穷 費	50,000		特別会計として総額の約15%
		事務		另 貨	230,000		特別会計として総額の約15%
		租 税		課	80,000	80,000	
		雑		費	45,000		特別会計として総額の約15%
	施	設		費	320,000		特別会計として総額の約15% 施設費: 室料、光熱費
対 本	1	н.			100,000	80,000	・セミナーテキスト代本部支払い ・本部事務経費 (構造レビュー等及び支部実施調査研究 (支回を
一般会計繰入支出					350,000	300,000	約) の本部受取分(受託額の5%))
	動支出記				2,720,000	2.652.000	
	加収支差額		-(B)		48,500	▲ 11,500	
	an -t-						
予 備	費支	∐ (D)			48,500	0	
当期収	支差	頂(E)=(C)-	(D)		0	▲ 11,500	
前期締ま	支 収 支 差 着	頂(F)			21,021,225	21,021,225	
D.1 1A1 4MF K							

●事務局だより

1.支部総会

0512(13:00~14:30)計222名 (対面47名、委任状 175名)

場所:中之島会館(Zoomウェビナー併用)

2.支部幹事会

0418(18:15~20:00) Zoom会議併用 場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

3.運営会議

0418(17:00~18:00)Zoom会議併用 場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局 0523(18:00~20:00)Zoom会議併用 場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

4.事業委員会

0410(18:00~19:00)Zoom会議併用 場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局 内容:2022年度事業報告および

2023年度事業計画について

0508(18:00~18:40)Zoom会議併用 場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容: 2023年度の事業委員会活動に

ついて

0619予定(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局内容:現場見学会、研修会企画について

5.技術委員会

0417(18:00~20:00)ZOOM会議併用 場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局 内容:各分科会活動報告・デザイン発表会 について

0626(予定18:00~20:00)

ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局 内容:各分科会活動報告・本部技術委員 会の報告

6.広報委員会

0621(18:00~19:00)ZOOM会議併用 場所:鴻池組会議室

7.耐震診断・補強判定委員会関西部会開催なし

8.木造住宅レビュー委員会

0620(予定18:00~)

場所: ㈱SERB会議室

内容: 耐震設計レビューと実務講習会等

9.構造レビュー委員会

開催なし

10.研究会・記念事業

0512 JSCA関西支部定例研究会「構造 デザイン発表会」 計301名 (会場131名、WEB170名)

場所:中之島会館(Zoomウェビナー併用)

11.現場見学会

開催なし

12.研修会

開催なし

13.支部報

Structure Kansai No.157(2023.04) 発行

14.技術委員会各分科会

○地盤系分科会

0413(16:00~18:00)

場所:大林組会議室+Teams会議併用 内容:杭の耐震診断実建物を例とした検 討事例報告

SDGsへの取組みについて情報共有

○RC分科会

0519(14:00~17:00)耐震設計分科 会と合同開催

場所:七福鋼業株式会社 滋賀工場内容:ニューフェローデッキ工場見学

○金属系分科会

0620(日程調整中)

場所: 竹中工務店会議室+Zoom会議併用内容: 鋼構造大空間プロジェクト紹介予定

○情報システム分科会

0615予定(18:00~)

場所:未定 内容:未定

○構造計画分科会

開催なし

○耐震設計分科会

0519(14:00~17:00) 場所:七福鋼業株式会社 滋賀工場 内容:ニューフェローデッキ工場見学

○PC·工業化分科会

0424(18:00~19:00)

場所:大林組会議室+Teams会議併用 内容:設計事例紹介

○木構造分科会

0420 (18:00~20:15)

場所:SERB会議室

内容:マニュアル第6部事例演習

0518 (18:00~20:00)

場所:SERB会議室

内容:マニュアル第6部事例演習

0622 (予定18:00~)

場所:SERB会議室

内容:マニュアル第6部事例演習

○法制分科会

0413(18:00~19:00)

場所:JSCA関西事務局 リモート併用開催 内容:トルコ・シリア大地震、死者5万人超 (日経アーキテクチャ他)

ほかについて意見交換

15.サテライト活動

・奈良会 開催なし

・京滋会 開催なし

・兵庫会 開催なし

16.講習会

開催なし

17. 親睦会

0512 支部総会懇親会 参加者 99名

場所:フェスティバール&ビアホール

18. 関連団体との交流

開催なし

●編集後記

お忙しい中、執筆にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

コロナも5類扱いとなり、5月に開催された構造デザイン発表会も久しぶりの対面開催で非常に多くの皆様に参加いただきました。その後の懇親会でも発表者を交えて有意義な交流を深めることができたかと思います。大阪万博も間近に迫り、JSCA関西支部の役割も大きくなってくることとなります。皆様の力で盛り上げていきましょう。 (慶祐一、金田興熙)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会 関西支部事務局

(下記に移転致しました)

〒550-0005

大阪市西区西本町1-7-8 柴田東急ビル402 Tel 06-4394-8433 Fax 06-4394-7566 Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp URL http://jscakansai.com/